

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名			
○保護者評価実施期間	2025年 12月 11日		～ 2025年 12月24日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	29	(回答者数) 16
○従業者評価実施期間	2026年 1月 5日		～ 2026年 1月 19日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	幅広い年齢層(20代～70代)の職員が勤務しており、それぞれが得意なことを活かせる職場環境がある。職員間の風通しがよく、ご利用児の変化や学校や保護者からの情報をタイムリーに共有できている。	手先が器用な職員にワークショップをやらせたり、調理実習の際に女性職員を多く配置したり、得意を活かせる職員配置にしている。プライベートの充実ができるよう、積極的に有給を取得できるようシフトを調整している。	送迎ができる職員の補填を本部に打診している。
2	ほとんどのご利用児をご自宅に送っているため、その日の様子を丁寧に保護者に伝えることができている。1対1のため、保護者からの悩み事の聞き取りもしやすい。	ご自宅送りの際に、なるべく違う職員が行き、多角的な視点で情報共有ができるように配慮している。また年に数回、保護者会や親子活動などを計画し、保護者との連携を密にとれるようにしている。	学校と情報共有できる場が少ないため、連絡会の開催を打診するなど積極的に情報共有できる場を設けたい。
3	パソコンやスマートフォンの操作に慣れている職員が多く、支援アイデアの検索や画像処理アプリなどを積極的に活用し、支援の質の向上を図っている。	SNSから他事業所や保育・介護職員の支援アイデアを検索し、支援に取り入れている。ご利用児の興味のあるキャラクターやアイテムを活用し、楽しみながら必要なスキルを身に付けられるようにしている。	ご利用児が自由に使えるパソコン(職員の許可が必要)を用意し、折り紙の折り方や地図アプリでの世界旅行など、知的好奇心や得意を伸ばせる環境を整えている。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ご利用児の個人ロッカーが狭く十分なスペースが確保できていない。	施設の構造上、柱や壁、段差などが多く、広くスペースを確保することが難しい。	玄関から活動室に行く動線上にロッカーを設置し、荷物を置きやすい環境にしている。片付けが苦手なご利用児のロッカーは入り口近くに置く、利用曜日が同じご利用児のロッカーが隣り合わない等の配慮をしている。
2	災害が起きた際に、施設や周辺環境に不安な要因がある。	施設の横に川が流れている。	台風や大雨の際には、定期的に警報発令の有無や川の水位を確認し、早めに自宅に送る等の安全措置をとっている。
3	全学年共通して参加できる集団活動の提供が難しい。	ご利用児の学年が小学1年生から中学3年生までと、年齢幅が大きい。	中学生は系列である就労支援型放デイひまわりJOBへの移行を促している。同じ活動でも低学年と高学年でレベルを分ける、高学年にリーダー役をお願いする等の学年に合わせた配慮をしている。